

## 第3回 青葉市民会議（概要記録）

開催日時:2024年2月18日(日)13:00~17:00

開催場所:たまプラーザ プラーザホール

〒225-8535 横浜市青葉区美しが丘1-1-2 たまプラーザテラス ゲートプラザ 2階

主催:横浜市地球温暖化対策推進協議会

一般社団法人環境政策対話研究所

参加市民:32名、

運営委員:松下、梶原、葉石、佐藤、村上、柳下

メインファシリテーター:村上(運営委員)

グループファシリテーター:小林、大島、葉石、稲田素子、奥田、鈴木、山口、大江、三浦

スタッフ:奥田、牧野、原、内山、田中、岡安、浅海

オブザーバー:5名

### I 開会・オリエンテーション

- 佐藤一子氏(横浜市地球温暖化対策推進協議会副会長)より開会の挨拶
- メイン Fa の村上氏によるオリエンテーション
  - 会議目標のリマインド  
脱炭素で住みよい田園都市青葉を実現するための下記3点を考える
  - ①市民自らの取り組み
  - ②市民の行動変容を支える地域社会
  - ③それらを推進する区、市の施策

### II グループワークI

「前回以降で何か変わったことは？」

### II 第2回までのインプットのふりかえり

「脱炭素青葉作りを進めていく上でのヒント」…一般社団法人環境政策対話研究所代表理事 柳下正治氏

前回(12月9日)は横浜市、及び異なる視点を持つ3人の専門家の4人の専門家から「青葉区での脱炭素化」をテーマにそれぞれの観点からお話をいただいた。

**【横浜市】横浜市地球温暖化対策実行計画の概要**…①住宅の省エネ性能の向上、②再エネの導入③脱炭素ライフスタイルの実践・サーキュラーエコノミー構築の連携、④脱炭素ライフスタイルのキャンペーン、という4つの取り組みの紹介。

<コメント>前回の参加市民間の議論では「③脱炭素ライフスタイルの実践・サーキュラーエコノミー構築の連携」についての話し合いが行われていなかったのではないかと。この点意識してもらいたい。また、市の

説明は、「家庭部門」に焦点を当てていたため、「移動」は説明対象外sssとなっていたが、これは地域社会の住民・生活者として、当然議論の対象である。

#### **【産業技術総合研究所 歌川学氏のレクチャーの概要】**・・・技術者の観点で、

- ①車、建物、などの技術、物を更新する際に必ず脱炭素を入れること。
- ②買う時は高いものでも長期的な目で見れば元が取れる。出費を恐れないこと。
- ③市民、地域の中にこういった話が行き渡っていないことが問題。情報の共有、普及を強化すること。この3つのポイントが強調された。

**【地球環境戦略研究機関 渡部厚志氏のレクチャーの概要】**・・・カーボンフットプリントの考え方の重要性が強調された。脱炭素青葉づくりの主要ポイントとして、他の専門家からは話題に出なかった動物性食品(とりわけ牛肉)を避ける、食品ロスの削減、などについての指摘がなされた。また新品購入を減らすことの重用性にも言及された。

**【慶應義塾大学環境情報学部の巖網林氏のレクチャーの概要】**・・・地域の自然的条件、土地利用の特徴等を十分に頭に置いた対応が必要。対策の進展に関しては、世代交代時が脱炭素化のチャンス、低層住宅が広がっていることの強みを生かすこと、青葉区にある農の可能性を伸ばすこと等の指摘がなされた。

### **Ⅲ 【グループワーク1】 第2回のアウトプットのふりかえり**

村上氏より前回の市民による対話の結果をまとめた資料の説明し、これを用いて前回の議論の振り返り作業を行うよう指示。

- 前回自分たちが話し合ったことは何だったか、資料をみながら思い出す。
- 話し合っ盛り上がっていたのに資料に反映されていない部分があれば、追記。
  - グループ1より
    1. 大分類の A に入っている「移動式の食品カーの導入」を、消費とライフスタイルの C に分類してもらいたい。
    2. B の2か C の3に入ると思うが、「省エネ機器、太陽電池のサブスク化」というのが抜けている → **「住まい」に関する事なので B の2に入れる。**
  - グループ5より
    1. B の1に、「買い替え前に数年で元が取れる」という省エネ家電の情報を周知する、というのを追加してほしい。
    2. B の1に、「非省エネ家電に対してハードルを設定する、省エネじゃない家電を高くする」などを追加してほしい。

### **Ⅳ オプション企画の情報共有**・・・横浜市地球温暖化対策推進協議会副会長 佐藤一子氏より報告

- ・ 1月21日にオプション企画を開催。参加者は合計42名。そのうち市民会議参加者は12名。
- ・ **桐蔭横浜大学医用工学部教授の池上和志教授**からはペロブスカイト太陽光発電の話題高効率、軽い、既存の太陽電池を活用できる、今まで設置できなかったスペースにも設置可能、といった点が注目。まだ開発途上にあるが、東電がすでに丸の内の新ビルに取り入れるなどの例もある。

- ・ 生活クラブ生活協同組合神奈川の佐野めぐみ氏からは、組合員が生産者の収穫に参加する計画的労働参加、生産者を支える基金の設立、共同米の開発、などの取り組みが紹介された。
- ・ 東急総合研究所の奥村令子氏からは太陽発電電池や蓄電池の設置、みどりを増やしていきたい団体への助成金等、東急グループの様々な事業の紹介。自治体、市民と連携して進める2030年環境ビジョンの紹介がなされた。
- ・ 一般社団法人団地暮らしの共創事務局長の小柴健一氏からは、住民の高齢化、経年化が深刻な問題になっているすすき野団地のサッシの改修工事、団地再生マスタープランの策定といった取り組みが紹介された。
- ・ ソーシャルコーディネートかながわの葉石真澄氏、株式会社 RINNE、一般社団法人 Women Help Women の西田治子氏からは、ものを捨てずに価値を見出して循環させていく、という新しい仕組みについての話題提供があった。企業、NPO、教育機関などと連携を目指していきたいという取り組みに、ぜひ参画したいという声も上がった。
- ・ 横浜市地球温暖化対策推進協議会の佐藤一子氏からは、協議会がとったアンケートの紹介に始まり、木質エネルギー導入、LED 電球、ペアガラス設置を行った佐藤氏宅における取り組み、太陽光電池を導入した K 宅、家庭の油が二酸化炭素を出さない飛行機の燃料になるという台所油田プロジェクトなどの紹介がなされた。

## V テーマに分かれた提案づくり

○4つのテーマに大別する。

- A. 移動
- B. 住まいとエネルギー
- C. 消費とライフスタイル
- D. 知識と情報

○各参加者は、議論に参加してみたいテーマを第一志望から第三志望までを記入して事務局に提出。

### ○提案作りに向けたガイダンス（公益財団法人廃棄物・3R研究財団 理事長 梶原成元氏）

4つのテーマ(A: 移動、B: 住まいとエネルギー、C: 消費とライフスタイル、D: 知識・情報)に分かれて、

- ①望ましい未来像
  - ②課題
  - ③青葉の特徴・強み
  - ④市民は、○○○をする
  - ⑤地域主体\*\*\*は、○○○をする
  - ⑥市・区は、○○○をする
- を考えていただく。

## VI【グループワーク2】テーマに分かれた提案づくり

テーマに分かれて約50分間グループワーク

## VII【グループワーク3】テーマに分かれた提案づくり

グループを変えて同様にテーマに沿ったグループワーク

グループ提案は、次のような①～⑥の流れの下に、資料を活用して次々とこなしていくように指示

**簡単に自己紹介→話し合いたい「望ましい未来像」を選ぶ  
→フォームに沿って話し合い（1シート15分くらい）**

**①望ましい未来像**

【資料2】から

**②課題**

【資料4】も参考に

**③青葉の特徴・強み**

【資料1・4】も参考に

**④市民は、〇〇〇をする**

**⑤地域主体\*\*\*は、  
〇〇〇をする**

**⑥市・区は、〇〇〇を  
する**

【資料2】 【資料4】も参考に、「誰が・何をする」を意識してアイデアを出し合う

## VIII 提案の共有

グループワーク終了後、各グループの代表者からグループワークの結果を概略報告し共有した。

- A1（移動）
- A2（移動）
- B1（住まいとエネルギー）
- B2（住まいとエネルギー）
- C1（消費とライフスタイル）
- C2（消費とライフスタイル）
- D1（知識と情報）
- D2（知識と情報）

## IX. 閉会

- 村上氏より次回以降のスケジュール確認
- 柳下氏より挨拶・・・逗子・葉山、厚木での市民会議が終了し、それぞれの資料がオンライン上で閲覧できる。ぜひ参考にして欲しい。